

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名

国立大学法人神戸大学

学部・研究科等名

経営学部

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅲ 教育方法

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名:授業形態の組合せと学習指導法の工夫

○顕著な変化のあった観点名:主体的な学習を促す取組

本学部では、講義を中心とし、研究指導(ゼミナール)を組み合わせた授業形態をとっており、これらがカリキュラムとしてバランスよく配置されているが、平成20年度以降、以下のような改革を実施し、学部教育の一層の充実を図っており、関係者から高い評価を得ている。

○学習モチベーションを高めるための1年次教育の整備

1年生が入学直後から履修する科目であり、今後の学習効果に大きな影響が予想される経営学入門科目を再編し、知的興味と知的向上の対象を持たせる「経営学入門」と、知的向上の方法を知りその努力をさせる「経営学入門演習」(平成22年度開講)を設定した。「経営学入門」のミッションは、①新生に(広義の)経営学への興味を持たせ、これからの大学生活で自ら進んで経営学を学んでいく気持ちを芽生えさせる、②経営学に多様な分野があることを教え、各学生がこれから実際に科目を履修するに当たり、経営学の科目展開を理解した上で履修計画を立てられるようにする、の2点である。一方、「経営学入門演習」のミッションは、経営学の分野における知的向上がどのように実現できるかを学生に体得させ、以降の専門教育において自ら知的向上の努力ができるようにすることである。平成21年度前期開講の「経営学入門」では、それを実行するために、学部長による総括講義と、経営学(狭義)、会計学、市場科学の各分野から4人ずつの教員がオムニバス形式で、広義の経営学における個別分野について、その概要を解説するという授業形態に改め、教務委員2人も毎回の授業に参加し全体のコーディネートをを行った。授業アンケートの結果から、経営学に対する興味が湧いた(強くなった)、特に、自分の関心の対象が明確になったなどの意見が多く寄せられ、個々の教員の授業インパクトが強く、浸透力があることが明らかとなった。さらに、入学以前に持っていた経営学に対する先入観を補正し、それまで想像できなかった様々な分野の存在を理解でき、また、知的内容があり深い学問だとイメージが変わったとの結果も出ており、入門科目としての役割を有効に果たしていると言える。

○成績優秀者の表彰と「凌霜賞」の創設

本学部では、卒業に際して、成績最優秀者に「六甲台賞」を授与してきた。これに加え、平成20年度から、各学年の学業成績の優秀者の表彰を行うようになった。すなわち、2年次から4年次各年次の平均評点の上位30人を成績優秀者として、その氏名を掲示し、顕彰している。各学年の成績最上位者には、「凌霜賞」として学資金が授与されている。また、成績優秀者の表彰を受けた者は、3年次のゼミナール配属に当たり優先的に所属先を決めることができるようにしたり、高度な経営学学習を行えるようアドバイザー制度を導入することとした。この中から大学院博士課程前期課程の推薦入試を受験する者が出るなどその実績もあがりつつある。

○ラーニング・ファシリテーター制度の導入

従来、ティーチング・アシスタント(TA)は授業の補助者として、大学院生が授業教材の作成や教室の機材の準備、テスト・レポートの採点補助などの業務を担当してきた。さらにきめ細かな教育体制の実現を図るため、平成20年度からラーニング・ファシリテーター(LF)制度を導入した。LFとは、上級TAとして補助的な授業を大学院生に行わせるもので、その目的は、大学院生に早期に教育経験を積ませることと同時に、受講する学生に対して教員とのやりとりだけでは難しい細かなサポートを追加的に与えることである。LFはアフターセッションや補習目的の特別セミナーを実施しており、アンケート結果によると、授業内でカバーしきれない追加的な知識を得たり、個別具体的な事項について質疑応答を行い理解が深めることができ、今後更なる拡充を期待するなどとの意見が寄せられている。なお、TAについても、LF制度導入の波及効果と講義資料の電子配布の推進により、クラス内での授業補助や自習課題の採点補助など、よりきめ細かな教育に資する業務に多くの時間が当てられるようになってきている。